

試將下列日文文獻譯為華語。

一、昔、病氣のときは漢方医に見てもらった。漢方医は処方箋を書いて患者に渡す。患者はその処方箋を持って漢方薬局へ行き、薬を処方してもらって、自宅で煎じて飲む。

その頃の漢方医は、国家認定の医者ではなくて、少しばかり漢字が読める程度の人が、薬草全書を見ながら診察する、いい加減なインチキ医者ばかりである。デタラメな処方箋のために、薬を飲んで死んだ患者がたくさんいるが、だれも損害訴訟を起こさない。「それもまた運命だよ」といってあきらめるのである。 (35%)

— (陳宗顯『臺灣のことわざ』、1994年6月、東方書店)

二、数年前、中学生が幼い子供を続け様に殺害した事件があった。それから一年くらいのうち、この中学生が通っていた学校の校長先生がある雑誌にこの事件のことを書いていて、中にたいへんおもしろいところがあった。——いや、そのおもしろいところというのは、事件とはなにも関係がありません。日本語の問題として、おもしろいところがあった。 (35%)

— (高島俊男『漢字と日本人』、平成13年12月、文芸春秋)

三、日本語は漢語と系統を異にするのみならず、また性格が全く異なる。もし日本語と漢語と英語の三つをとって比べて見るならば、漢語と英語とは、系統は無論違うけれども、かなり似たところが多い。英語と日本語とも少しは似たところがある。しかし日本語と漢語とは殆ど似たところがない。 (30%)

— (高島俊男『漢字と日本人』、平成13年12月、文芸春秋)